

# 決定!! 祝 出港!! 大湊自慢 わたしの海自カレー

大湊海自カレー 出港記念テーマ!



広報むつ7月号で大募集した、祝出港!! わたしの大湊海自カレー自慢をご紹介します。

## マサムネさん

ぼくの大湊海自カレー自慢は、ボリューム満点でおなかいっぱいなところ!! 憧れの自衛隊員になった気分でモリモリ食べたよ!! コロッケもサクサクでおいしかったよ!! また今度いろんな自衛隊のカレーたべてみたいな!!

「大湊海自カレー自慢」に採用されたマサムネさんには、北の防人大湊安渡館にて絶賛販売中のカレースプーンをプレゼントいたします! おめでとうございます!!



## 世界に広めたい!! わたしのむつ自慢 街中みんなが特派員!

### あなたの「自慢」を広報むつでみんなに教えませんか?

毎日の暮らしのなかで、あなただけが発信できる「自慢」はありませんか? 我が家の自慢や職場・学校での自慢、むつ市の自慢などどんな自慢でもかまいません! あなたが伝えたい「わたしの自慢」はむつの自慢です!採用されたむつ自慢は広報むつで紹介。広報むつは市ホームページにもアップされますので、これは世界中に発信されたも同然!! あなたの自慢は「むつ自慢」! ご応募お待ちしております。

#### 〈応募方法〉

写真1枚にひとことメッセージを添えて、広報むつまでメールでご応募ください。メッセージの最初は「わたし(ぼく、オレ...)のむつ自慢は」などから始めてください。本文の最後に、応募者の氏名、住所、電話番号を明記ください。ペンネームでの掲載をご希望の方はそちらも明記ください。

#### 〈応募先〉 市企画部市民連携課 わたしのむつ自慢募集アドレス

[info@city.mutsu.lg.jp](mailto:info@city.mutsu.lg.jp)

- 〈注意事項〉・送信いただく写真のサイズは4MB未満(JPEG推奨)とし、圧縮ファイル等を用いず送信してください。
- ・フリーメールでの送信は、受信できない場合がありますのでご注意ください。
  - ・応募されたもののうち、採用された写真とメッセージ、お名前(ペンネーム)のみ掲載されます。
  - ・応募写真およびメッセージの著作権は応募者に帰属しますが、広報むつは応募写真およびメッセージを使用する権利を有します。また、メッセージについて、一部修正して掲載する場合があります。
  - ・応募写真に他人が権利を有する著作物または他人の肖像が写っている場合は、その著作物の権利またはその肖像ご本人(成人未満の場合は保護者)から事前の承諾を得たうえで応募ください。
  - ・市は、他人の著作権、肖像権を侵害するような行為が行われた場合、それに関するトラブルの責任は一切負いません。
- 〈禁止事項〉・公序良俗に反する物、第三者の著作権およびその他の権利を侵害するもの、第三者を誹謗中傷またはそのプライバシーを侵害するもの、法令等に違反し犯罪行為に結びつくもの。またはその恐れのあるもの。
- ・本企画の趣旨に合わないもの。
  - ・応募内容が判読不能なもの。

問市民連携課広報担当 ☎22-1111 内線 2157



## 消費生活センターだより

Vol.61

アシスト比率が道路交通法の基準を超えている 電動アシスト自転車に乗るのはやめましょう!

問 むつ市消費生活センター(産業振興課内)  
☎22-1353(直通)  
〈土曜、日曜、祝日、お急ぎの場合などは〉  
全国共通消費者ホットライン ☎局番なし 188

電動アシスト自転車のアシスト比率が道路交通法上の基準を超えていると、基準を超えたアシスト力が不意に加わる事により、バランスを崩すなど危険です。基準に適合しない電動アシスト自転車でも道路を通行すると法令違反となり、また、事故につながるおそれもあります。

○消費者へのアドバイス  
◆電動アシスト自転車は、こぐ力が低減され楽になるものの、電池切れになると急に重く感じます。アシスト機能があるからといって、どのような状況でも楽に乗れるなどと期待しないようにしましょう。

◆乗り方によって走行距離に差が出るので、変速機付きの車種では軽いギアを選ぶなどスムーズな運転に心がけ、「蹴り乗り」は危険なのではないようにしましょう。

◆インターネット通販などで、自走可能な機能を有した「電動自転車」「フル電動自転車」などの名称で販売されているものの中には、公道を走行できないものもあります。型式認定(TSマーク付き)を受けた電動アシスト自転車を選ぶようにしましょう。

川 柳	俳 句	短 歌
この辺がもう潮時と捨てた欲 食欲が一つ残って老い之道	我が村も空き家めだちて夏の草 黙り立つ托鉢僧の炎ゆる中 炎ゆに炎ゆ若き棋士等の指す一手 屋根灼けてなすすべきのペンキ塗り 部活子の走る浜辺の砂灼ける	物音のせず更けてゆく玻璃窓に嗚呼なつかしも亡夫のほほむ カーテンの揺れて静かな午睡時焦がし醤油の香り入りくる 早朝の暗い中をランニング白く光るは狐か灯か
朝顔は胸ときめかす青春の色 蝶結び可愛くいききてきたつもり	花空木見下ろす雨のちぢり浜 山海の珍珠盛らるる夏料理	散策の疲れに聞こゆる湧き水の「蕩蕩水」の勢ひ手に取る 矢越 朝子
	暮想の中なる孤独梅雨に入る 父の日の父は独りで祝い膳 母の日に亡父を語りて酒供い	山本 博子
	菅蒲川 大森順子	三國 紀子
	瀬川 文子	篠塚 マサ
	渡部 せい子	船木 和寿
	中西 かつよ	葛西 美保子
	川島 節子	
	井手上 省子	
	戸川 美重子	
	織田 澄香	
	高橋 星湖	
	杉本 一 道	
	山田 すきま風	

